

記憶の中のゴルフ場（英国・中東編）

吉田 真人

ロイヤル・セント・ジョージ（英国ケント州）

「ジ・オープン」の行われるリンクスのうち、唯一南イングランド（サンドイッチ）にある。リンクスは海沿いにあり、めまぐるしく変わる天候と海からの風を如何に御すかが試される。防風林等はない。

ここはプレー経験のある唯一のリンクスである。何処に転がるか判らないフェアウェイ、多くの蝟壺バンカーで、記録するに値しないスコアではあったが、びっしりと芝の生え揃った見事なグリーンと、古色蒼然としたバーで飲んだビタービールの味を覚えている。

セント・ジョージス・ヒル（英国サレー州）

毎年7月第3週の木曜日即ち「ジ・オープン」の初日に、英国の特殊樹脂ユーザーを招待してコンペを催していた。ロンドン南西郊外のコースで、スリーサムでスタートする。

2004年、6番ホール・パー3で、珍しくナイス・ショット。しかし惜しくも右のバンカーに落ちた。次のプレイヤーは左のバンカーに。最後の一人に「残るは真ん中だけだよ」と言ったら、ボールはその通り真っ直ぐに。なんとそのままホールインワン。実際のエースを目撃したのは、これが最初、且つ最後。

日本と違い達成者が同伴者に奢るといふ習慣はなく、ホールインワン保険なるものもない。主催者として、達成者に記念の賞品を出したので、追加費用が発生したわけだが、百数十ヤード先で、ボールがカップに吸い込まれる瞬間を目撃したことは貴重な経験であった。

エミレーツ（UAEドバイ）

1988年オープンの中東最初の天然芝コース。但し、ラフは土漠のまま。

開場数年後にプレーした。当時ドバイの淡水消費量のうち1/3をこのゴルフ場で消費していた、と伝えられており、何とも贅沢だ。

プレー後のラウンジも印象深い。英国のパブそのままの造りで、しかも新しく光り輝いている。ビール（エールやビター）やウィスキー等飲み物は何でもある。これでアラアの神に叱られないのか、と不安を感じつつ、数日ぶりのビールが旨い。

（2023年6月22日）